講師

隅田　由加里

■　学歴

1．　産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻（修士課程）看護管理学分野　卒業

■　学位

1．　修士（看護管理学）

■　研究分野

1．　看護管理
2．　看護教育
3．

■　研究キーワード

1．　看護実践能力，一人前レベル，急性期医療、共分散構造分析、因子分析
2．　ジグソー法、協同学習、アクティブラーニング、看護学生、診療関連技術
3．

■　研究課題

1．　急性期医療を担う「一人前」レベル移行期にある看護師の看護実践能力に関する研究
2．　ジグソー学習法を活用した協同学習が診療に伴う看護技術の学習活動に与える効果

■　担当授業科目

1．　診療関連技術論演習
2．　看護マネジメント論
3．　看護マネジメント総論
4．　看護総合演習（看護管理）
5．　看護総合実習（看護管理）
6．　初年次セミナーⅠ
7．　初年次セミナーⅡ
8．　看護過程論
9．　看護技術論演習
10.　ヘルスアセスメント演習
11.　生活援助技術論演習
12.　早期看護実習
13.　基礎看護学実習Ⅰ
14.　基礎看護学実習Ⅱ

■　授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1．	授業科目名【診療関連技術論演習】
	「形態機能学」「生活援助技術論演習」の既習の知識を活用できるよう資料を工夫した。予習、講義・演習、振り返り・復習のプロセスのもと、各技術別に授業を構成し、Google classroom 内に動画媒体を導入し繰り返し視聴できるようにした。さらに演習後は、学生の看護技術を撮影した動画を視聴しながら振り返りを行い、各自が課題を見いだす支援を行った。また看護技術ごとのレポートを提出させることで知識習得を支援した。
2．	授業科目名【看護マネジメント論】
	看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、実習部門を例にして、2 年次の「看護マネジメント総論」での学びを活用しての看護サービス管理と、それをもとにした看護ケア管理を軸に授業を構成した。授業は講義とグループワーク方式を連動させ、質の高い医療・看護とは何か、これを全ての患者に提供するためにはどのようなマネジメントが必要であるかを思考する形式とした。また本授業は最後の各論実習期間と合致するため、選択している学生の実習日等を配慮し、履修学生全員が参加できるよう日程の調整を図った。
3．	授業科目名【看護マネジメント総論】
	初めて聞くマネジメント用語も多いため、可能な限りわかりやすい言葉を使用し、日常生活の中に存在する身近なマネジメントともリンクさせながら、マネジメントとは何かから導入し、今の医療現場の状況を踏まえながら授業を展開し理解向上に努めた。「医療安全」の単元においては、動画等を活用してヒューマンエラーの理解と医療安全対策の必要性を教授した。授業内容の理解を深める目的でレポート課題を設けた。
4．	授業科目名【看護総合演習（看護管理)】
	実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「看護部・病棟」における看護管理実習の目的・目標の立案に向け、実習前は 1 回／１～２週ゼミを開催し、8 月上旬までに上記の部門における実習目的・目標・実習スケジュール・評価指標を構築できるように調整を図った。実習終了後は実習での学びを活用し、各自のテーマに即した卒業レポート記載の支援を行った。
5.	授業科目名【看護総合実習（看護管理)】
	「医療安全管理部」「感染制御部」「看護部・病棟」の 3 部門での実習を、学生が円滑に行うことができるよう施設側と複数回に渡って調整を図った。実習前に実習指導者への説明会を調整し、学生がプレゼンテーションを行える機会を設けた。これによって、学生は看護管理実習のイメージ化を図ることができた。また実習期間中は、部門ごとに教員も付き添い、実習導入が円滑となるよう支援した。
6.	授業科目名【初年次セミナーⅠ】
	１年次前期の科目であるため、学生とのコミュニケーションが図れるよう、教員から積極的に声かけを行い人間関係の構築に努めた。グループワークが主であったため全学生の発言を促す関わりと肯定に留意して支援した。学生のワークやレポートのフィードバッグは、まずは全体の総括を行った後、個別でも実施した。グループ間の人間関係が構築できるように、学生間の調整を必要時図った。
7.	授業科目名【初年次セミナーⅡ】
	初年次セミナーⅡは個人活動が主であったため、各学生が小論文を完成させることができるよう、個別で関わり各学生の疑問や悩みに対応した。発表時は学生がリラックスできる環境を調整するとと

	もに、円滑な進行に留意した。また否定はせず更なる改善ができるようなフィードバックに努めた。
8.	授業科目名【看護過程論】
	看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を、わかりやすく具体例を活用し指導するとともに、学生が興味を持てるよう肯定的な言語を活用し承認を意識したコミュニケーションを図った。個別フィードバックにおいては、改善点をわかりやすく記載配布し修正が行いやすいように配慮した。授業終了後は、担当教員間で Meeting を開き教員間の情報交換と情報共有を行った。
9.	授業科目名【看護技術論演習】
	科目責任者と事前調整を図り、「感染予防技術（スタンダードプリコーション)」「環境調整技術（ベッドメイキングとシーツ交換)」の演習に参加した。演習では 1 年生が理解できるよう、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントを思考できるよう心がけた。
10.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】
	科目責任者と事前調整を図り、全演習に参加した。演習の際は担当学生に対して、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。実技試験の評価時は、公平性を担保できるよう時間を調整し、評価ポイントに準じて実施した。
11.	授業科目名【生活援助技術論演習】
	科目責任者とは、限られた時間の中で教授すべき技術ポイントの事前調整を図り演習に臨んだ。演習では「活動と休息（車椅子操作)」「清潔（足浴、洗髪台での洗髪、口腔ケア)」「排泄（オムツ交換と陰部洗浄)」に参加し、可能な限りわかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。最後の統合演習における実技試験は、事例、スケジュール、評価表を教員間で討議しながら作成し、担当者として学生にオリエンテーションと技術支援を行った。実技試験当日は公平性を担保できるよう時間を調整し、指標に準じて評価した。また実技試験後は授業内で評価のフィードバックを行った。
12	授業科目名【早期看護実習】
	入学して 2 ヶ月での実習のため、学生と患者の安全を最優先に教員間で時間をかけて調整し、学生が理解できるようわかりやすい説明を行った。特に身だしなみの重要性と必要性を説明した。学生が自由な発想で気づきを得ることができるように導き、また臨地実習指導者にも学生が理解し気づきを得ることができるよう、わかりやすい言葉で細やかな説明を加えてもらえるよう調整を図った。さらに感染に留意し、日々の健康管理を各学生が行えるようにした。
13.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】
	実習目標達成に向けて早い段階から日程やスケジュール等を基礎看護学教員間で調整し、実習に臨み、実習期間中は臨地実習指導者と調整を図り学生が目標達成できるよう支援を行った。実習中・後は教員間で活発なコミュニケーションを図り、評価に乖離が生じないように注意した。記録の作成や患者との関わりで困難を感じている学生とは密にコミュニケーションを図り調整を行った。
14.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】
	実習目標達成に向けて早い段階から日程やスケジュール等を基礎看護学教員間で調整し、実習に臨み、実習期間中は臨地実習指導者と調整を図り学生が目標達成できるよう支援を行った。実習中・後は教員間で活発なコミュニケーションを図り、評価に乖離が生じないように注意した。限られた時間の中で患者理解が進むよう、患者の病状等の解説を行い、記録の作成や患者との関わりで困難を感じている学生とは密にコミュニケーションを図り調整を行った。

■　学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1．	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護技術学会	
2．	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護学教育学会	
3．	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護管理学会	
4.	2017 年 4 月～現在に至る	日本看護科学学会	
5.	2022 年 8 月～現在に至る	医療の質・安全学会	

■　研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）					
1．					
2．					
3．					
（学術論文）					
1．	2025年3月	急性期医療を担う一人前レベル移行期にある看護師の看護実践能力に関する研究（第1報）－看護師の看護実践能力の実態とその習得過程に関わる要因の検討-	共著	西南女学院大学紀要 Vol.29,2025	① 急性期病院の一般病床で一人前レベル移行期にある看護師の看護実践能力の実態と、その習得過程の影響因子を看護実践能力自己評価尺度との関係から明らかにすることを目的とした。看護実践能力習得過程の影響因子は「学習支援」「相互支援の雰囲気」「成功体験からの成長実感」「状況変化対応能力」「コミュニケーション能力」「看護師経験年数」で、組織は知識修得に役立つ「学習支援」と、看護技術を向上できる「相互支援の雰囲気」のある体制構築に取り組む必要性が示唆された。 ② 共著者名：林田賢史 ③ P67～P77
2．	2025年3月	急性期医療を担う一人前レベル移行期にある看護師の看護実践能力	共著	西南女学院大学紀要 Vol.29,2025	① 急性期病院に勤務する一人前レベル移行期にある看護師を対象に、看護実践能力と看護実践能力習得過程の影響因子の関連性を共分散構造分析によって明らかにすることを目的とする。一人前レベルへと看護師の成長を支援するた

		に関する研究（第2報）－看護師の看護実践能力習得過程に関わる影響要因の因子構造－			めには、《看護実践能力習得への支援要因》体制のもと【学習支援】行い、さらに《看護実践能力習得への動機づけ要因》が存在する組織環境を構築することの必要性が示唆された。 ② 共著者名：林田賢史 ③ P79～P88
3．					
（翻訳）					
1．					
2．					
3．					
（学会発表）					
1．	2024 年 10 月	ジグソー学習法を導入した診療に伴う看護技術演習における学習活動効果 －演習リーダーを経験して得た学びと気づきからの一考察－	共著	日本看護技術学会　第 22 回悪術集会	① 診療関連技術論演習の授業にジグソー法を導入し、その中で演習リーダー役割を経験した学生の学びをカテゴリ化した。分析の結果、6 の学びと 2 つの困難さのカテゴリ【知識の復習と理解】【技術提供時の問題予測と正しい判断】【実践で得る新たな発見】【上達している実感】【有効な学習方法の探索】【他者との関わりから得る協同的姿勢】【自信が持てない】【集中できない】が抽出された。 ② 共同発表者名：梶原江美、長崎恵美子、中島紀江、金山正子 ③ 第 22 回 日本看護技術学会講演抄録集（演題番号：P2-3）
2．	2024 年 12 月	ジグソー法を導入した診療に伴う看護技術演習における学習活動効果 －学習活動自己評価尺度からの一考察－	共著	第 44 回　日本看護科学学会学術集会	① ジグソー法を診療関連技術論演習の授業に取り入れた学習活動効果を学習活動自己評価尺度を用いて、Mann-Whitney の U 検定で分析した。ジグソー法による看護技術教育は、知識・技術の獲得や課題達成に向けた能動的取り組みの視点で効果があったと推察した。 ② 共同発表者名：梶原江美、長崎恵美子、中島紀江、金山正子 ③ 第 44 回 日本看護科学学会講演抄録集（(演題番号：P1-9-28）

3．					

■　外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共　同　研　究

	研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1．				
2．				
3．				

（2）　個　人　研　究

	研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
1．				
2．				
3．				

■　社会における活動

	任　　期 期　間　等	団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等
1．	2017 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学　認定看護管理者教育課程ファーストレベル講義	
2．			
3．			

■　学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任　　期 期　間　等	会議・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等
1．	2024 年 4 月 1 日～現在に至る	教育経費予算配分委員会	委員
2．	2022 年 4 月 1 日～現在に至る	学力向上委員会（低学年担当）	委員
3．	2017 年 4 月～現在に至る	西南女学院大学　看護キャリア支援センター	認定看護管理者教育課程教育運営委員